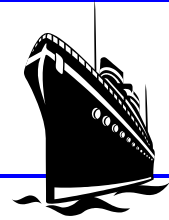


MSI Marine News

トピックス



●海上保険の総合情報サイト **MARINEN@vi** もぜひ、ご覧ください。(http://www.ms-ins.com/marine_navi/)

AIS（自動船舶識別装置）と海難防止について

毎年3月から5月にかけて、低気圧と高気圧が交互に日本付近を通過することで、天気が数日の周期で変化し、海象が急変することがあります。そのため船舶が豪雨・突風・高波・濃霧などに遭遇し、衝突や座礁などの海難事故が多く発生する傾向にあります。本稿では、このような安全な航行を妨げる状況が発生した際、操船者を補助するシステムである AIS (Automatic Identification System: 自動船舶識別装置) についてご紹介します。

1. AISについて

AIS は、船舶の識別符号、種類、位置、針路、速力、航行状態及びその他の安全に関する情報を自動的に VHF 帯電波で送受信し、船舶相互間及び船舶と陸上の航行援助施設等との間で情報交換するシステムです。2002年7月1日に発効した「1974年の海上における人命の安全に関する条約 (SOLAS74) 第V章」を受け、本邦では「船舶設備規定」に基づき、次の特定の船舶に対し、AIS を搭載することが義務づけられました。

- (1) 国際航海に従事する300総トン以上の全ての船舶
- (2) 国際航海に従事する全ての旅客船
- (3) 国際航海に従事しない500総トン以上の全ての船舶

AIS を適切に使用するためには、以下の点に注意する必要があります。

- (1) 常に電源を ON にする。
- (2) 出港前に自船の AIS 情報が正しく入力されているか確認する。(目的地、到着予定時刻等)
- (3) AIS 受信メッセージを定期的に確認する。

なお、AIS の搭載義務がない小型船等でも、比較的安価な簡易型 AIS を搭載することで、他船の動きが把握し易くなるほか、他船からも自船の存在を認識してもらい易くなるため、相互の事故防止に繋がることが期待できます。

2. 航海情報の表示方法の統合

船舶の操船にあたっては、自船と他船の位置・船速・針路・気象・航行水域の警報等のさまざまな情報を活用しています。しかし、多種多様な機器を別々に操作・確認する必要があるといった問題があり、国際海事機関(IMO)は、航海に必要な情報の表示方法を統合すべく、2016年2月29日から3月4日まで、ロンドンにおいて開催された会合で国際的なガイドラインの検討を開始しました。多くの情報を一つの画面上に、理解しやすく機能的かつ調和的に表示することで、乗組員の負担を軽減し、さらには迅速な意思決定及び安全航行に役立てることを目的としています。このガイドラインは2017年にまとめられる予定です。

3. 安全な航海のために

船舶には操船者を補助する有用な機器類が多数搭載され、その性能も毎年のように進歩していますが、それを扱う乗組員が常に安全に対し高い意識を持って行動すること、また、それぞれの機器の正しい使用方法を理解することが極めて重要です。航海の基本動作である見張りはもちろん、他船との衝突のおそれがある場合は無線・汽笛等を適切に使用し、早めかつ大きな針路変更などで自船の動きを付近の航行船に伝えることを心掛ける必要があります。

<参考文献>

海上保安庁HP <http://www.kaiho.mlit.go.jp>

以上